

# JLEM News Letter Vol.27



## 第32回日本語教育方法研究会開催

発表 40 件

第33回は弘前大学にて

2009年3月21日(土)、第32回日本語教育方法研究会が神奈川大学で開催されました。

実行委員の富谷玲子先生、スタッフのみなさま、大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、研究会前日の3月20日に運営委員会が開かれ、会の運営について、報告・審議がなされました。詳細については、このレターの記事をご覧ください。

今回の研究会は、2009年9月26日(土)、弘前大学において開かれます。久々の東北での開催ですが、連休との関連で開催日程が例年より遅めになっております。詳しい情報については別紙を参照のうえ、みなさまふるってご参加くださいませ。

### 開催を終えて

富谷玲子  
(神奈川大学)

2009年3月21日(土)、第32回研究会を神奈川大学にて開催いたしました。幸い天候に恵まれ、気の早い桜もちらほら見られる春らしい美しい一日でした。発表は40件を超え、大変な盛況となりました。

研究会の会場は多目的ホールとホワイエという特殊な場所で、ポスター発表会場は3つの階にまたがり、ポスターの設置も非常に複雑になってしまいました。参加者のみなさまには、階段の上り下りなど大変なご苦労をおかけしてしまいました。また、春休み中の土曜日でしたので、休憩や昼食などの点でも、ご不便をおかけしてしまいました。行き届かない点多々ありましたことをお詫び申し上げます。

全国から日本語教育関係者が集まるこのような会は、神奈川大学としては初めての経験で、日本語教師を目指す学生や大学院進学を志す学生にとって、大変刺激になりました。また、副学長が開催校代表としてご挨拶をさせて頂きましたが、これは、学内への日本語教育に関する大きなアピールにもなりました。日本語教育の専門部門のない神奈川大学にとって、全国規模の研究会の開催は大きな意義を持つものとなりました。

お世話になりました運営委員のみなさま、ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。研究会を開催させていただきましましたこと、心

より感謝申し上げます。

### 次回開催にあたって

鹿島 彰  
(弘前大学)

2009年9月26日(土)開催のJLEMを弘前大学が担当することになりました。このような会の運営経験も少なく皆様が満足できる会に出来るかどうか、はなはだ不安ではありますが、運営委員の皆様の助力も頂き、実りのある会となるよう努力したいと思います。どうかよろしくお願いたします。

青森県を含む北東北は、大学や市民団体が運営する日本語教室の数も限られています。JLEMは様々な立場の日本語教育関係者が集う場です。今回の会が地域内の、そして地域を超えた新たな日本語教育のネットワークを築く一つの機会を提供できることを切に望んでおります。

弘前は津軽地方の中心として数百年の歴史を持つ町で、近郊には、様々な観光地、数ある温泉などを楽しむことも出来ます。八甲田の山頂付近では既に紅葉を楽しむことも出来ます。研究会と共に、北国の涼しい空気、美味しい食べ物、歴史のある町、豊かな自然等は是非お楽しみください。北の大地から皆様のお越しをお待ちしております。

## 総会報告

2009年3月21日、第32回大会会場である神奈川大学16号館セレストホールにおいて午後1時40分から総会を行いました。定足数は2009年3月1日現在の会員数579名の10分の1の58名ですが、総会出席者はこれを大きく上回っておりました。

議題は、報告事項が4件、審議事項が3件でした。

報告事項は、①会員数、②会誌バックナンバーの電子化について、③次回研究会（於：弘前大学）について、④その他（発表原稿提出方法の変更について）の4件で、②③④の詳細は、このニュースレターのそれぞれの記事を参照なさってください。審議事項の1件目は「運営委員会委員について」で、2009年4月から新たに4名の運営委員を加えることについて、総会の承認をいただきました。新規加入の委員は、清水昭子（立命館アジア太平洋大学）、保坂敏子（日本大学）、増田真理子（東京大学）、向井留実子（愛媛大学）の4名です。2件目は「2008年度決算と2009年度予算について」で、これも承認されました。詳細は、本ニュースレターの別稿をご覧ください。3件目は「その他」で、海外からの会費の振込についてでしたが、これも、本ニュースレターの別稿をご覧ください。（才田いずみ）

## 運営委員会報告

第32回大会の前日、2009年3月20日の午後6時から9時半まで、神奈川大学17号館にて運営委員会を行いました。出席委員は従来からの委員が10名で、欠席の3名から委任状の提出がありました。そこに開催校の富谷先生、4月からの新委員4名のうちの3名、名嶋事務局と会長の才田が加わりました。総会報告と重複しない事柄についてのみ報告します。

①運営委員会委員の役割分担について

会誌の編集担当の小野委員と会員管理の衣川委員にそれぞれサポートを付けることにし、会誌編集のサブを根津委員に、会員管理のサポートを4月からの新委員の保坂氏にお願いすることにしました。

②会長選考委員会の報告

現会長の才田と名嶋事務局は現在2期めを務めていますので、会則により2010年3月いっぱい退任となります。そのため、前回（2008年9月）の運営委員会で、候補者選考委員会を立ち上げたことすでにご報告申し上げたとおりですが、今回は、選考委員会での検討内容について、運営委員会に報告していただきました。会長候補については比較的順調に選考が進み1人に絞りこむことができましたが、事務局候補については、最終案を得ることができませんでした。とりあえずは会長候補に上がった方と折衝してみても、その回答によって、事務局についてはご相談することになりました。

会長・事務局ともに候補者の内諾が得られれば、次回、弘前での運営委員会で正式に総会に推薦することを決定し、2010年3月の総会で承認していただく運びになります。

③20周年に向けて

1993年に発足したJLEMは、2013年に20周年を迎えます。10周年のときには、10周年記念論文集を編んだほか、5名の方に10万円の研究奨励費を進呈しました。20周年はまだ少し先のことでありますが、何か記念の活動を行うかどうか、次回運営委員会でディスカッションするので、各自腹案を考えてくることとなりました。会員みなさんも、これについてご意見がありましたら、お寄せください。

④大坪一夫先生のご逝去について

JLEMの生みの親と言ってもよい麗澤大学教授の大坪一夫先生のご逝去について、大会の朝の会長挨拶で報告し、このニュースレターにも記事を掲載することにしました。

⑤今後の開催予定について

次回33回は、9月26日に弘前大学で開催しますが、その後の開催校として、34回は2010年3月に東京農工大学にお引き受けいただき、第35回の2010年9月は名古屋の金城学院大学にお願いできそうな見通しです。2011年3月以降の開催については、まだ検討の段階で正式な打診はしていません。ご協力いただけたところがありましたら、ぜひご一報ください。（才田いずみ）

## 事務局よりご連絡

### ●運営委員の異動について

清水昭子氏、保坂敏子氏、増田真理子氏、向井留実子氏（50音順）の4名が新たに運営委員に加わりました。

### ●会誌の電子化について

会誌の電子化作業（PDF ファイルをCD-ROM に保存）を進めております。事務局電子化係より電子メールで「電子化承諾のお願い」をお受け取りになられましたら、ご協力をお願いいたします。また、前々回研究会時から、特にお申し出のない限り発表申込と同時に電子化の承諾をいただいたものとしてお取り扱いしております。2009年9月26日に開催いたします33回研究会の発表申込においても同様の形でまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ●研究会のあり方について

2009年3月21日に開催されました総会におきましてもご意見をうかがいましたが、研究会のあり方について検討中です。会員の皆様から広くご意見をいただきたいと考えております。「口頭発表が必要か否か」や「講演について」、「ポスター発表の時間」等どんなご意見でも結構です。ご意見がございましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

### ●発表応募資格や発表者・共同研究者の位置づけについて

発表申込資格は「申込時に会員であること」です。発表申込と同時に入会することも可能ですが、極力申込前に入会手続きをお済ませください。入会手続きには「電子メールによる

申込」と「会費払い込み」が必要です。発表者と共同研究者の位置づけですが、「発表者」は会員であることが求められ、会誌の執筆者になったり会場で発表したりすることができます。一方、「共同研究者」は必ずしも会員でなくてもよいのですが、連名であっても会誌の執筆者にはなれず、一部であっても会場で発表行為を行うこともできません。複数のメンバーで発表をお申し込みの際はご確認をお願いいたします。

### ●バックナンバーについて

会誌バックナンバーの販売を行っております。一冊700円（プラス送料実費）です。購入ご希望の方は事務局までご連絡ください。おおまかな在庫はホームページに掲載しておりますが変動もございますので、ご参照の上、事務局宛メールでお問い合わせください。（名嶋義直）

## 会員管理担当委員よりお知らせ

### 1)連絡先をお知らせください

次の方々のご連絡先がわかりません。ご存じの方（もちろんご本人でも）、是非事務局（jlem@sal.tohoku.ac.jp）までお知らせください。よろしく願いいたします。

桜田 千采 / 島 弘子 / 高橋 美和子 / 佐々木 薫 / 中村 則子 / 岩井 五郎 / 近藤 裕子 / 土居 佳代子 / 馮 芳 / 松井 晴子 / Francesca Ventura / 尹 ヒョ禎 / 魏 桂先 / 福本 太一 / 小林 明華 / 榎木 亜希子 / 武永 洋子 / 草川 麻妃 / 許 家純 / 小林 友美 / 堀内 貴子(敬称略)

### 2)会費振り込みに関して

今回お送りした封筒のラベルをご覧ください。左下に小さく4桁の数字が印字されています。「2009」と印字されている会員の方は2009年度分まで会費を納入いただいている会員の方です。ただし、これは2009年4月末日の記録ですので、5月中にお振り込みいただいた方はラベルには反映しておりません。その点、ご了承ください。郵便局で振り込まれる場合は、振込者欄への記入は氏名だけで構いません。所属も記入する場合は「氏名を先」にしてください。所属を先に記入すると後ろの氏名がカットされる場合があります。

なお、会費をお振り込みいただいた方で以下の方のお名前が確認できておりません。是非事務局（jlem@sal.tohoku.ac.jp）までお知らせください。よろしく願いいたします。

2009年1月21日と2009年2月5日に3000円納入いただいた「ガッコウホウジンカナ」の方

2009年1月26日に6000円納入いただいた「ワセダダイガク ヤマ」の方

## 会費納入について

### ●振り込み口座について

会費の納入をお願いいたします。過去の会費をお支払いいただいない方も納入をお願いいたします。

運営委員会報告(1)にもありますように、会計年度は1月から12月までとなっております。また、会費を

納めた年は送付物の宛名ラベルの下に印刷してあります。会費を2年間未納の場合は自動的に除名となりますが、除名後に再入会なさる場合には過去の未納分をお支払いいただきました上で手続きとなりますので、何卒よろしく願いいたします。

なお、海外からの会費払い込みについては、国際郵便為替でお支払いください。

振込先：ゆうちょ銀行

記号 10140

番号 69076511

加入者：日本語教育方法研究会

\* ご注意

この口座は電信払込しかご利用いただけません。氏名を先にご入力ください。印字の都合上、ご所属のみ

しか届かず、お名前が判明できない場合があります。

会費は3000円です。

2年間未納の場合は自動的に除名となります。

問い合わせ先：

jlem#sal.tohoku.ac.jp

(#を@に変えて下さい)

総会報告にもありますように、日本語教育方法研究会の生みの親と言ってもよい大坪一夫先生（麗沢大教授・東北大名誉教授）が、去る2009年1月2日にご逝去されました。

つきましては、生前ご親交の深かった筑波大学の西村よしみ先生にご寄稿をいただきましたので、大坪先生のご冥福を祈り、掲載いたします。

### 大坪一夫先生ご逝去にあたり 西村よしみ(筑波大学)

筑波から第17回研究会の主催校である信州大学へ向かう車の中、「経営がうまく行かなくなったときこそ、その組織の理念が問われるときなんだ」と大坪先生は「経営論」を語った。「現場」「実証」「実践」という大坪イズムをモットーに1993年に発足した研究会であった。しかし、研究発表数の減少、研究会の方向付けなど、研究会の運営が危機的状况にあり、事務局も会員にアンケート調査を行うなどして、解決方法に悩んでいた時期であった。

信州大学での研究会は大きな転機だったように思う。理念を見直し、組織をシステム化し、徐々に研究会としての自信を取り戻していった。

そして、2006年には「日本語教育学会賞」を受賞し、今年は33回を迎え、数多くの研究成果が生まれ、若い日本語の先生たちが育っている。

「続けることに意味があるんだ」といつもおっしゃっていた先生。もっと時間をかけてお酒を飲みたかったですね。「先生、ありがとう」。

JLEM ニューズレター第27号

発行：日本語教育方法研究会

ホームページアドレス：<http://www.soc.nii.ac.jp/jlem/index.html>

メールアドレス：[jlem#sal.tohoku.ac.jp](mailto:jlem#sal.tohoku.ac.jp)(#を@に変えて下さい)

ニューズレター編集担当：小林由子